年度 2007　学期 前期	曜日･校時　　月 4	必修選択　　必修	単位数　1
授業科目/(英語名)	総合英語Ⅰ Comprehensive English　Ⅰ		
対象年次　1年次	講義形態　　演習	教室	
対象学生(クラス等)　　Lb		科目分類　　外国語科目 (英語)	

担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
担当教員: 西原 真弓　/Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ:nishihara@kwassui.ac.jp　/研究室:非常勤講師室
/オフィスアワー:授業前後

担当教員(オムニバス科目等)	

授業のねらい/授業方法（学習指導法）/授業到達目標

授業のねらい: 高校までに身につけた英語の知識や能力を基本に、その力を応用し、提示されたものをリーディングやリスニング活動を通じて情報を得ることができるようになるだけでなく、自分の考えを論理的に書き、また、口頭で伝えることができるようにする。 特に、リスニング力をアップさせるコツを身につけていく。

授業方法: テキストを中心に、問題解決をしていくと共に、ペアワークやグループワークを通してスピーキング力を養う。

授業到達目標: テキストで提示されている状況において、確実に自分で情報を取り込み、発言ができるようにする。
教育学部であるため、将来英語を指導する立場になった時に必要な英語の能力を客観的に理解できるようにする。

授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)

授業内容 (概要) 英語という言語を知識の領域を越え、自己実現のための受信･発信の道具として使いこなせるようにする。
指定された状況において、世界における様々な国の人による英語を理解できるようにする。そのために、
毎回の授業内で、英語を使って様々な活動をしてもらう。

第1回　Getting to know each other
第2回　Pastime
第3回　Invitation & Appointment
第4回　Telephone Conversation
第5回　Making Small Talk
第6回　Intentions
第7回　Permission & Suggestions
第8回　Commenting & Expressing Feelings
第9回　Informing & Encouraging
第10回　Favor Asking
第11回　Survival English
第12回　Comparative Cultures
第13回　Comparative cultures
第14回　Returnees' lives
第15回　定期試験

キーワード	
教科書･教材･参考書	Tadashi Shiozawa & Gregory A. King 著 『New Activator』 金星堂
成績評価の方法･基準等	期末試験(70%)、授業・活動への積極的参加態度(30%)をもとに総合的に判断する。
受講要件(履修条件)	毎回授業に出席すること。 指示された活動に積極的に関わること。
本科目の位置づけ/学習･教育目標	
備考(準備学習等)	